

川崎市建築物環境配慮制度受付番号 20055

建築物名称	研修施設・社員寮建設工事
建築主	丸全昭和運輸株式会社 代表取締役社長 浅井 俊之
建築物の所在地	川崎市川崎区桜本2-39-2
設計者氏名、建築士事務所名	小川 洋行 株式会社奥村組東日本支社 一級建築士事務所
工事種別	新築
床面積の合計	3,240.71m ²
用途	寄宿舎
構造	鉄骨造
階数	地上6階
工事完了年月	令和4年3月
自然エネルギーの利用 (利用を検討した自然エネルギーの種類)	太陽光発電、太陽熱利用、燃料系潜熱回収瞬間式給湯器
自然エネルギーの利用 (利用を決めた自然エネルギーの種類)	燃料系潜熱回収瞬間式給湯器

Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency CASBEE川崎

■使用評価マニュアル: CASBEE-川崎2017年版

使用評価ソフト: CASBEE-川崎2017(v.3.1)

評価結果

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	研修施設・社員寮建設工事	階数	地上6F
建設地	神奈川県川崎市川崎区桜本2-39-2	構造	S造
用途地域	第二種住居地域、準防火地域	平均居住人員	100人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年(想定値)
建物用途	事務所、集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2022年3月 竣工	評価の実施日	2021年3月1日
敷地面積	1,921㎡	作成者	株式会社奥村組 東日本支社
建築面積	1,022㎡	確認日	2021年3月1日
延床面積	3,241㎡	確認者	株式会社奥村組 東日本支社

外観パース等
パースの公表を希望される場合は
図を貼り付けてください

2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 0.9

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂ (温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

2-4 中項目の評価 (バーチャート)

Q 環境品質 **Q のスコア = 2.5**

Q1 室内環境 **Q1のスコア = 2.9**

Q2 サービス性能 **Q2のスコア = 2.6**

Q3 室外環境 (敷地内) **Q3のスコア = 1.8**

LR 環境負荷低減性 **LR のスコア = 3.4**

LR1 エネルギー **LR1のスコア = 3.9**

LR2 資源・マテリアル **LR2のスコア = 2.8**

LR3 敷地外環境 **LR3のスコア = 3.2**

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目についての環境配慮概要		実績重点項目スコア 合計/ 重点項目最高点のスコア合計	重点項目への 貢献点注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
緑の保全・回復(G)		Gの平均点	2.4
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策			
1 生物環境の保全と創出	川崎市緑化指針の基準を満たしている	1.6/4.3	1.8
2 まちなみ・景観への配慮			
3 3.2 敷地内温熱環境の向上	空地率46.8%、緑被率、水被率、中・高木の合計水平投影面積率43.1%		
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.2 温熱環境悪化の改善	気象データを参照、地表面対策面積率73.4%	0.5/0.8	3.0
地球温暖化防止対策の推進(W)		Wの平均点	3.0
Q-1 ■ 室内環境対策			
2 2.1 2.1.2 外皮性能		2.8/4.3	3.3
3 3.1 3.1.3 昼光利用設備			
3.2 3.2.1 昼光制御			
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策			
1 生物環境の保全と創出	川崎市緑化指針の基準を満たしている	0.8/2.3	1.7
3 3.2 敷地内温熱環境の向上	空地率46.8%、緑被率、水被率、中・高木の合計水平投影面積率43.1%		
LR-1 ■ エネルギー対策			
1 建物外皮の熱負荷抑制		4.0/5.0	4.0
2 自然エネルギーの利用			
3 設備システムの高効率化	BEI=0.83、BEIm=0.93		
4 効率的運用			
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策			
1 水資源保護		2.7/4.7	2.9
2 非再生性資源の使用量削減			
3 3.2 フロン・ハロンの回避			
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.2 温熱環境悪化の改善	気象データを参照、地表面対策面積率73.4%	0.5/0.8	3.0
資源の有効利用による循環型地域社会の形成(R)		Rの平均点	2.9
Q-2 ■ サービス性能対策			
2 2.2 部品・部材の耐用年数		0.3/0.5	2.9
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策			
1 水資源保護		2.3/4.0	2.9
2 非再生性資源の使用量削減			
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.3 地域インフラへの負荷抑制		0.2/0.4	3.0
ヒートアイランド現象の緩和(H)		Hの平均点	2.9
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策			
1 生物環境の保全と創出	川崎市緑化指針の基準を満たしている	0.8/2.3	1.7
3 3.2 敷地内温熱環境の向上	空地率46.8%、緑被率、水被率、中・高木の合計水平投影面積率43.1%		
LR-1 ■ エネルギー対策			
1 建物外皮の熱負荷抑制		4.0/5.0	4.0
2 自然エネルギーの利用			
3 設備システムの高効率化	BEI=0.83、BEIm=0.93		
4 効率的運用			
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.2 温熱環境悪化の改善	気象データを参照、地表面対策面積率73.4%	0.5/0.8	3.0

注)重点項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

重点項目への貢献点の平均点 **2.9**

ライフサイクルCO2評価対象項目についての環境配慮概要		実績スコア合計/ 最高点のスコア合計	ライフサイクル CO2評価対象 項目への 貢献点注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
建設段階			
Q-2 ■ サービス性能対策			
2 2.2 2.2.1 躯体材料の耐用年数		0.1/0.1	3.0
修繕・更新・解体段階			
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策			
2 2.2 既存建築躯体等の継続利用		0.7/1.2	3.0
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			
運用時のエネルギー			
LR-1 ■ エネルギー対策			
1 建物外皮の熱負荷抑制		4.0/5.0	4.0
2 自然エネルギーの利用			
3 設備システムの高効率化	BEI=0.83、BEIm=0.93		
4 効率的運用			

注)ライフサイクルCO2評価対象項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

スコアシート		実施設計段階				建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体					
配慮項目	重点項目				環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数						
	G	W	R	H											
Q 建築物の環境品質										2.5					
Q1 室内環境										2.9					
1 音環境										3.0					
1.1 室内騒音レベル										3.0	0.49	3.0	0.50	3.0	
1.2 遮音										3.0	0.49	3.0	0.50		
1 開口部遮音性能										3.0	0.96	3.0	0.30		
2 界壁遮音性能										3.0	0.04	3.0	0.30		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)											-	3.0	0.20		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)											-	3.0	0.20		
1.3 吸音										3.0	0.02		-		
2 温熱環境										2.6	0.35	3.0	1.00		2.7
2.1 室温制御										3.0	0.50	3.0	1.00		2.7
1 室温										3.0	0.60	-	-		
2 外皮性能										3.0	0.36	3.0	1.00		
3 ゾーン別制御性										3.0	0.04		-		
2.2 湿度制御										1.0	0.20	-	-		
2.3 空調方式										3.0	0.30	-	-		
3 光・視環境										3.0	0.25	4.0	1.00	3.5	
3.1 昼光利用										4.2	0.30	4.0	0.50	3.5	
1 昼光率										5.0	0.60	5.0	0.50		
2 方位別開口											-	3.0	0.30		
3 昼光利用設備										3.0	0.40	3.0	0.20		
3.2 グレア対策										3.0	0.30	4.0	0.50		
1 昼光制御										3.0	1.00	4.0	1.00		
3.3 照度										1.0	0.15	-	-		
3.4 照明制御										3.0	0.25	-	-		
4 空気質環境										2.6	0.25	2.7	1.00	2.6	
4.1 発生源対策										3.0	0.59	3.0	0.63	2.6	
1 化学汚染物質										3.0	1.00	3.0	1.00		
4.2 換気										2.0	0.39	2.3	0.38		
1 換気量										3.0	0.48	3.0	0.33		
2 自然換気性能										3.0	0.03	3.0	0.33		
3 取り入れ外気への配慮										1.0	0.48	1.0	0.33		
4.3 運用管理										4.0	0.02		-		
1 CO ₂ の監視										3.0	0.50		-		
2 喫煙の制御										5.0	0.50		-		

Q2 サービス性能					0.30	-	-	2.6	
1 機能性					1.6	0.40	2.8	1.00	2.2
1.1 機能性・使いやすさ					1.1	0.40	3.0	0.60	
1	広さ・収納性				3.0	0.03		-	
2	高度情報通信設備対応				3.0	0.03	3.0	1.00	
3	バリアフリー計画				1.0	0.94		-	
1.2 心理性・快適性					1.0	0.30	2.5	0.40	
1	広さ感・景観			居室天井高H=2.55m	3.0	0.03	4.0	0.50	
2	リフレッシュスペース				2.0	0.03		-	
3	内装計画				1.0	0.94	1.0	0.50	
1.3 維持管理					3.0	0.30		-	
1	維持管理に配慮した設計				3.0	0.50		-	
2	維持管理用機能の確保				3.0	0.50		-	
2 耐用性・信頼性					2.9	0.30		-	2.9
2.1 耐震・免震・制震・制振					3.0	0.50		-	
1	耐震性(建物のこわれにくさ)				3.0	0.80		-	
2	免震・制震・制振性能				3.0	0.20		-	
2.2 部品・部材の耐用年数					2.9	0.30		-	
1	躯体材料の耐用年数		R		3.0	0.20		-	
2	外壁仕上げ材の補修必要間隔		R		2.0	0.20		-	
3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔		R		2.0	0.10		-	
4	空調換気ダクトの更新必要間隔		R		3.0	0.10		-	
5	空調・給排水配管の更新必要間隔		R	主要2用途にB以上、Eは不使用	5.0	0.20		-	
6	主要設備機器の更新必要間隔		R		2.0	0.20		-	
2.4 信頼性					2.8	0.20		-	
1	空調・換気設備				3.0	0.20		-	
2	給排水・衛生設備				2.0	0.20		-	
3	電気設備				3.0	0.20		-	
4	機械・配管支持方法				3.0	0.20		-	
5	通信・情報設備				3.0	0.20		-	
3 対応性・更新性					2.9	0.30	3.2	1.00	3.0
3.1 空間のゆとり					2.4	0.03	3.4	0.50	
1	階高のゆとり			住宅部分:階高にゆとりを持たせた設計	2.0	0.60	5.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ				3.0	0.40	1.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり					3.0	0.03	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性					3.0	0.94		-	
1	空調配管の更新性				3.0	0.20		-	
2	給排水管の更新性				3.0	0.20		-	
3	電気配線の更新性				3.0	0.10		-	
4	通信配線の更新性				3.0	0.10		-	
5	設備機器の更新性				3.0	0.20		-	
6	バックアップスペースの確保				3.0	0.20		-	
Q3 室外環境(敷地内)					-	0.30	-	-	1.8
1 生物環境の保全と創出				G	W		H		1.0
2 まちなみ・景観への配慮				G					2.0
3 地域性・アメニティへの配慮									2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上									2.0
3.2 敷地内温熱環境の向上				G	W		H		3.0

LR 建築物の環境負荷低減性										3.4
LR1 エネルギー										3.9
1 建物外皮の熱負荷抑制	W		H							3.0
2 自然エネルギー利用	W		H							3.0
3 設備システムの高効率化	W		H	[BEQ][BEIm] =	0.83					4.9
4 効率的運用										3.0
集合住宅以外の評価										3.0
4.1 モニタリング	W		H							3.0
4.2 運用管理体制	W		H							3.0
集合住宅の評価										3.0
4.1 モニタリング	W		H							3.0
4.2 運用管理体制	W		H							3.0
LR2 資源・マテリアル										2.8
1 水資源保護	W	R								3.0
1.1 節水										3.0
1.2 雨水利用・雑排水等の利用										3.0
1	雨水利用システム導入の有無									3.0
2	雑排水等利用システム導入の有無									3.0
2 非再生性資源の使用量削減										2.8
2.1 材料使用量の削減	W	R								2.0
2.2 既存建築躯体等の継続使用	W	R								3.0
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	W	R		-						3.0
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	W	R		-						1.0
2.5 持続可能な森林から産出された木材	W	R								2.0
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	W	R		OAフロア、LGS下地を採用						5.0
3 汚染物質含有材料の使用回避										3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用										3.0
3.2 フロン・ハロンの回避										3.0
1	消火剤			W						-
2	発泡剤(断熱材等)			W						3.0
3	冷媒			W						3.0
LR3 数地外環境										3.2
1 地球温暖化への配慮	W			ライフサイクルCO2排出率90%						3.4
2 地域環境への配慮										2.9
2.1 大気汚染防止										3.0
2.2 温熱環境悪化の改善				G	W					3.0
2.3 地域インフラへの負荷抑制										2.7
1	雨水排水負荷低減					R				3.0
2	汚水処理負荷抑制					R				3.0
3	交通負荷抑制					R				3.0
4	廃棄物処理負荷抑制					R				2.0
3 周辺環境への配慮										3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止										3.0
1	騒音									3.0
2	振動									-
3	悪臭									-
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制										3.0
1	風害の抑制									3.0
2	砂塵の抑制									3.0
3	日照障害の抑制									3.0
3.3 光害の抑制										4.4
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策									5.0
2	星光の建物外壁による反射光(グレア)への対策									3.0
										光害対策ガイドラインの過半を満たし、広告物照明を不使用